

基幹ロケット開発に係る有識者検討会の開催について

令和7年3月14日

研究開発局長決定

1. 趣旨

我が国の基幹ロケットについて、今後の開発の方向性等に関し有識者による検討を行う。「宇宙基本計画」(令和5年6月)においては、他国に依存することなく、宇宙へのアクセスを確保し、自立的な宇宙活動を可能にすることで、我が国の安全保障、国土強靱化や地球規模課題への対応、イノベーション、新たな知・産業の創造等を持続的に実現することが必要であること、また2030年代には、H3ロケットに続く次期基幹ロケットを運用していく旨が記載されている。打上げの高頻度化と、安全保障上必要となる宇宙システムの打上げや国際市場に対応する打上げ能力の獲得を目指した高度化、さらに、基幹ロケット・射場及び試験設備の適切な維持・管理に向けて、老朽化対策等の必要な措置の実施、高頻度打上げ対応に向けた射場の在り方についての検討と取組を継続的・計画的に進めることが指摘されている。

2. 検討事項

- (1) 基幹ロケットの高度化等について
- (2) 打上げの高頻度化について
- (3) その他

3. 構成及び運営

- (1) 別紙の宇宙分野等に関する有識者の協力を得て検討を行う。検討内容等により必要に応じて追加・変更等を行う。
- (2) 次に掲げる場合を除き、公開して行う。
 - ア. 機微情報を含むと考えられる案件
 - イ. 前号に掲げる場合のほか、個別利害に直結する事項に係る案件、又は検討の円滑な実施に影響が生じるものとして、検討会において非公開とすることが適当であると認める案件

4. 設置期間

令和7年3月から令和8年3月末までとする。ただし、必要に応じて期間を延長することができる。

5. その他

本検討会の庶務は、研究開発局宇宙開発利用課において行う。

(別添)

基幹ロケット開発に係る有識者検討会
構成員 名簿

(五十音順)

五十嵐 巖 三菱重工業株式会社 防衛・宇宙セグメント 宇宙事業部 事業部長

石田 真康 一般社団法人 SPACETIDE 代表理事 兼 CEO

岡田 匡史 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 理事 宇宙輸送技術部門長

笠原 次郎 東海国立大学機構名古屋大学未来材料・システム研究所 教授

中須賀 真一 東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻 教授

丹生 謙一 日本文理大学工学部航空宇宙工学科 教授

矢木 一博 株式会社 IHI エアロスペース 取締役 兼 宇宙輸送事業推進部 部長

吉井 信雄 東京海上日動火災保険株式会社 航空宇宙・旅行産業部 宇宙保険専門部長

若田 光一 アクシオム・スペース宇宙飛行士 兼 アジア太平洋地域担当最高技術責任者